

令和3年度 第1回 神戸市歯科口腔保健推進懇話会 議事要旨

1. 日時 令和3年7月28日(水) 13:30~15:00
2. 場所 三宮研修センター5階505号室
3. 出席者 天野会長、足立委員、上野委員(現地参加3名)
下記の委員(または代理)11名についてはWEB参加(50音順)
伊藤篤委員、伊藤清彦委員、置塩委員、榊委員、高橋委員、田中委員、
田守委員、土居委員、西尾委員、百瀬委員、西口久代氏(成田委員代理)

4. 議事次第

議題

- (1) 「こうべ歯と口の健康づくりプラン(第2次)」の取り組み状況について
- (2) オーラルフレイル対策事業について
- (3) 小学校でのフッ化物モデル事業について
- (4) 令和3年度 歯科口腔保健推進関連会議等スケジュール(予定)について

報告

- (1) 令和3年度 第1回 神戸市歯科口腔保健推進検討会(令和3年7月9日)
- (2) 地域包括ケア推進部会「多職種連携による口腔機能管理に関する専門部会」
- (3) 訪問歯科診療・訪問口腔ケア実施状況
- (4) 口腔がん検診実施状況
- (5) その他、情報交換等

5. 開会

局長挨拶

神戸市では、新型コロナウイルス感染症の対策に向け、市民の皆様と取り組んでおり、特に、神戸市医師会・歯科医師会・薬剤師会・民間病院協会の皆様には、ワクチン接種連携本部として大変お世話になっています。お陰様でワクチン接種の効果により高齢者の発症は激減しています。現在の感染者は第1波、2波の4倍となり、第5波に入っていると認識しています。入院者数は減少しているが、変異株が割合を増し、40、50歳代でも重症化しています。注視しながら、全力で努めていきたいと思っております。

本日の主な議題は3点、「こうべ歯と口の健康づくりプラン(第2次)」の取り組み状況について、オーラルフレイル対策事業について、小学校でのフッ化物モデル事業についてです。活発なご意見を頂けますよう、よろしくお願いいたします。

6. 議事

- (1) 「こうべ歯と口の健康づくりプラン(第2次)」の取り組み状況について
事務局より、資料1「令和2年度歯科口腔保健に関する施策の実施状況報告」について説

明

委員：p. 15 の壮年期について「50 歳になったら考えよう お口の健康」というリーフレットを作成した。現場の歯科衛生士から「歯が 1 本減るとかなり口腔機能が落ちる」という声があり、作成した。ホームページに掲載しているので利用願いたい。

会長：試しに口笛を吹いてみることで、口腔機能が衰えてきていることが判明する。

委員：神戸市歯科医師会では、フッ化物利用を推進している。p. 41 のコロナの影響にあるが、乳幼児健診のフッ化物塗布を再開して頂きたい。このまま終わらないようにお願いしたい。医療格差を減らす事業でもある。

事務局：乳幼児健診に併せて行っているフッ化物塗布ですが、コロナの影響で止まっていますが、申し訳ない。諸条件が整い次第、再開したい。

委員：p. 12 の学齢期の報告を見れば、コロナの影響でむし歯が増えていると思ったが令和 2 年度の 1 人平均むし歯数は減少している。令和 3 年度以降は注視していきたい。

事務局：昨年度は学校歯科医の先生方のご協力を頂き、1 回でも健診できたことに感謝したい。昨年 4、5 月は学校生活が止まっていたため、むし歯が増えるのではと危惧したが、むし歯本数は減っていた。家庭の努力と皆さんの啓発等のおかげと考えている。今後の数値がどのように変化していくか検討しながら、歯科医師会の協力も仰ぎつつ、むし歯の減少を目指していきたい。体重は増えていた。

会長：コロナむし歯は、はやっているので、来年の結果を注視したい。

委員：p. 12、歯肉炎の子どもが増えているのが気になる。全国的な傾向だと思うが、肥満も関係しているのか。分析はされているのか。

会長：おそらく口呼吸をしているのだろう。今年初めに鹿児島大学が全国の小児歯科医を調査したところ、小学生の 3 割、4 割にオーラルフレイルがあった。口の機能が落ち、風船を膨らませない、ろうそくを吹き消せない子どもが多くなっている。そのため口腔内が乾燥し、歯肉炎になり、口臭も出てくる。

委員：口腔機能の発達不全にアプローチしていくと将来的な歯肉炎が減少するのでは。

委員：p. 12、歯肉に異常がある割合は、小学生は少ないが、中高生になると一気に増加している。小・中学生の親として感じるが、この時期は、子どもが親からの指導が離れていく時期である。家庭や学校、行政などの指導で、中高生のむし歯や歯周炎を減らせる方法があれば知りたい。

会長：中学生以降は反抗期に入り、その後、大学生になると生活の場所やスタイルも異なり、親の管理が行き届かなくなる。

委員：神戸市のみならず口腔保健の課題だと思うが、むし歯の状況は、国際的には 12 歳児が指標となっている。中高生はなかなか表面化しない。むし歯罹患状況は日本では学校歯科統計として調査しているが、もう少し中高生にも注目したい。

会長：小学生のむし歯は減少しているが、年齢が上がるに従い、むし歯の発生率は増えている。むし歯になる時期が遅くなっただけと言われている。むし歯が多いことに関わ

りはない。

委員：長田区の3歳児、12歳児のむし歯数が減少しているのが特徴的だ。歯科医師会の先生方のご尽力の賜物かと思う。成人の受診率も各区とも増加している。歯周病の割合も長田区は改善しているのか。オーラルフレイルは、日常活動や孤立など全身フレイルと密接に関連している。長田区は特別な施策が市から打たれているのか。

事務局：40、50歳代で進行した歯周炎を有する人は約4割から約5割と増加している。策定時よりも全市的に増えている。区別では現在データがないので、また改めて報告したい。

会長：長田区は何か特別な事業をしているのか。

事務局：長田区では平成23年度からハッピーむし歯予防事業を行っている。長田区が主体となり、長田区歯科医師会、歯科衛生士の養成学校も協力している。特に保護者の意識を変えるため、妊婦歯科健診の受診率を上げようとして取り組んでいる。p.15で示すように、40歳・50歳・60歳歯周病検診での長田区の受診率は低いが、妊婦歯科健診は他の区と変わらない。長田区の乳幼児健診では、長田区歯科医師会から歯ブラシを提供して頂き、配布している。区内でのイベントでは、ちらしを配布して啓発をしている。その活動が次第に実を結んできたのかもしれない。

(2) オーラルフレイル対策事業について

事務局より、資料2「オーラルフレイル対策事業について」説明

委員：兵庫県栄養士会では「フレイル予防レシピ集」などの冊子を作成している。しっかり噛んで食べましょう、メニューの紹介、食べ方などを紹介している。通所サービス3箇所で配布するとともに、しっかり食べてフレイル予防しよう、口の管理について講話を行っている。昨年はコロナのために集まれなかったが、本来は、弁当を食べながら、食べる大切さ、栄養バランスやオーラルフレイルなどをみせて頂く予定だった。地域の高齢者サービスでも活動している。今後、フレイル予防カルタを用い、噛み方や食の大切さを啓発する楽しみながらオーラルフレイルの啓発をしていきたい。

委員：オーラルフレイルチェック事業を9月から開始したい。14大市指定都市でも他に例がない。オーラルフレイルと判定されると、指導やトレーニングを行うのだが、その次のステップを考え、1つのシステムを構築するところまで考えていきたい。

委員：p.44、オーラルフレイル啓発のちらしの配布状況を示しているが、好評であり、あんしんすこやかセンターなどから追加依頼がある。機器を用いたオーラルフレイルデータについては歯科衛生士会が計測して集め、神戸常盤大学が集計しており、全国的にも貴重なデータなので、ぜひ活用していきたい。

委員：オーラルフレイルは、次第に筋力が落ちていく、些細な衰えに早期に気付いてもらうことが大事。コロナで在宅を余儀なくされ、人と話をする機会が減った。この1、2年で後退した啓発事業の中で、今後の活動が重要になる。日常生活の中で自分の健

康を推進していく場所が必要である。兵庫県看護協会では、「まちの保健室」として、神戸市の高齢者を支える活動を行いたい。

(3) 小学校でのフッ化物モデル事業 について

事務局より、資料3「小学校でのフッ化物モデル事業について」説明

会 長：p.50 政令指定都市の状況では、フッ化物洗口事業は全国的にまだ盛んではない。京都市が抜きん出ている。

委 員：神戸のフッ化物塗布のモデル事業だが、二つの小学校の全生徒に行う予定なのか。

事務局：各学校のうち1学年を中心にして、モデルとしていきたいと考えている。

委 員：小学校のモデル事業だが、非常に長い経緯をかけてここまで来た。フッ化物塗布よりフッ化物洗口の方を軌道に乗せていきたい。皆様の協力がなければ出来ることではない。教職員説明会での教育現場の先生方のリアクションは厳しいものがあるが、ここで足止めするわけにはいかない。多くの方に一層協力して頂きたい。

会 長：京都や新潟、熊本では、フッ化物洗口を取り入れることで、むし歯が減っている。神戸でも事業を進めて頂きたい。

(4) 令和3年度 歯科口腔保健推進関連会議等スケジュール（予定）について

事務局より、資料4「令和3年度歯科口腔保健推進関連会議等スケジュール（予定）」について説明

7. 報告事項

(1) 令和3年度 第1回 神戸市歯科口腔保健推進検討会（令和3年7月9日）について

委員より、資料5「令和3年度 第1回 神戸市歯科口腔保健推進検討会 議事要旨」について説明

65歳のオーラルフレイルチェック事業は、広く受けて頂くために、歯周病検診とセットにすればよい。小学校でのフッ化物モデル実施は、コロナの影響で進捗がとどまっている。全国的に良い成果を上げているので、子どものむし歯を減らすためにフッ化物利用が有意義な取り組みが有効であることをしっかり伝える必要がある。乳幼児健診でのフッ化物塗布がなくなることが危惧する。オーラルフレイルの文言が広く浸透することを願う。

(2) 地域包括ケア推進部会「多職種連携による口腔機能管理に関する専門部会」について

委員より、資料6「地域包括ケア推進部会「多職種連携による口腔機能管理に関する専門部会」について説明

アンケート調査の結果から、口腔機能管理に関するアセスメントツールの作成、家族の理解を深めるためのリーフレットの必要性を感じた。頼みやすい歯科医師、歯科衛生士のつながりも必要。共起ネットで分析した結果、口腔関連サービスに関しては、施設系では、栄養

士との関わりが強く、訪問系では訪問看護師とのつながりが重要とわかった。

委員：特に印象が強いのは2点。ケアマネジャーの歯科口腔に関する意識について、温度差が大きかった。また、重要性は理解できるが、優先順位や介護報酬などの問題もあり、実際に手が回らないなどもあるなど、経済的なことは難しい。

（3）訪問歯科診療・訪問口腔ケア実施状況について

委員より、資料7「訪問歯科診療・訪問口腔ケア実施状況」について説明

訪問歯科診療は全区で満遍なく依頼がある。診療機材はポータブルエンジンの利用が多く、入れ歯の調整が多いためと思う。訪問口腔ケアは、区の偏りがあり、数が増えてほしい。

（4）口腔がん検診実施状況について

委員より、資料8「口腔がん検診事業実施状況」について説明

口腔がん検診は、4月5月は緊急事態宣言で休止。6月からは毎月60人ほど検診を実施。検査結果は、総受診者612人中、異常ありは24人と4%程度。

（5）その他、情報交換等について

委員：p.73の口腔ケア事業の実施回数についてだが、コロナ禍でも減少しなかった。少し区によって差があるので、区ごとに話し合いをして今後の対策を考えていきたい。全国に先駆けて兵庫県歯科衛生士センターが創設できたので、ぜひ登録して頂きたい。

委員：自身が過去に妊婦健診、子どもが保育園でのフッ化物洗口や学校歯科検診と関わりがあり、両親がオーラルフレイルを考える年齢に差し掛かったことなどもあって、歯の大切さを感じてきた。神戸市の取り組みには非常に関心があり、今回参加して、様々な年代別の特徴があることを知った。身近なところで話題にして、市民として取り組んでいきたい。

委員：様々な神戸市の取り組みを真剣に感じた。特に高齢者に関するテーマは、所属する老人クラブ連合会の中で、機会を見計らって、きちんと報告を行いたい。

8. 閉会